

階段防滑性ビニル床シートのふくれ

鈴木 哲夫

防滑性ビニル床シートのふくれについて以前にも取り上げたが、外部階段の不具合事例を紹介する。

写真1のように階段の段部を防滑性ビニル床シートで接着施工したところ、段部の踏板面や蹴込部にふくれが生じた。シート末端周囲は、シールされており両端にウレタンゴム系塗膜防水を施した複合防水仕様になっているのだが、どういふわけか、写真2のほか、段部のシートにふくれが現れることが多いようである。

コンクリートの階段の造られ方は、段部の精度補正のため蹴上及び踏面をモルタル塗りすることが一般的でコンクリート打ち放しであることはまずない。そのため、モルタル塗りの内部は、どこからか雨水の浸入があると段部に沿って流下するルートになるが、表面にシートなどの仕上層がなければ水は抜け出るが、密閉状態になると水蒸気圧の上昇でふくれる。特に密着張りよりも、くし目接着に出やすい。それでは、どこから水分は供給されるのだろうか。

①壁がタイル張りの場合は、下地に張付モルタルやタイ

ル割付けのための調整モルタルを塗っていることが考えられ、その部分に雨水が浸透して流下し、踏板のモルタル層にたどり着いてふくれをもたらず(図1のAルート)。この場合は、ささら部上部を躯体まで届くように目地切りし、躯体部分だけシーリングして目地を透かし、上部と縁を切る。

②階段最下部の土間面の下地に浸透した水分が蹴込部のモルタル塗りと連続している場合は、雨水の滞留や水蒸気の内部上昇があり、蹴込部を中心にふくれをもたらず(図2のBルート)。この場合は、階段最下部と土間の入隅で躯体まで目地を切り、目地を透かしておく。

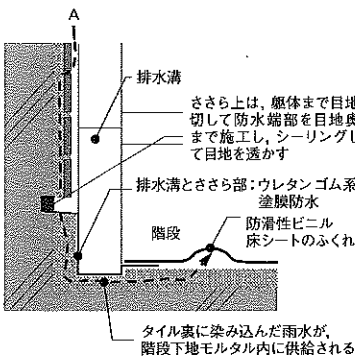


図1 壁面からの浸入ルート

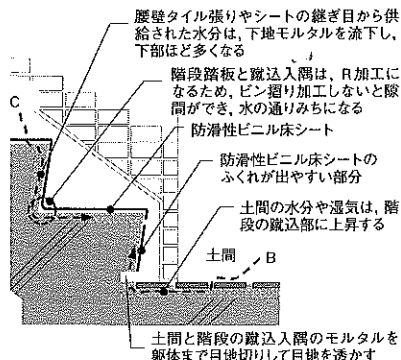


図2 土間およびシート端部からの浸入ルート

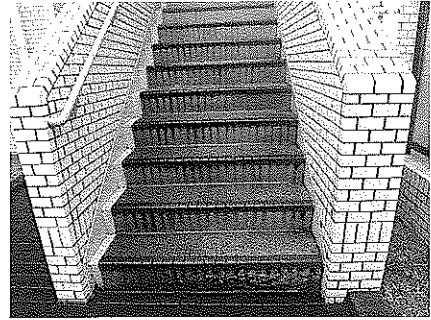


写真1 シートにふくれが現れた外部階段

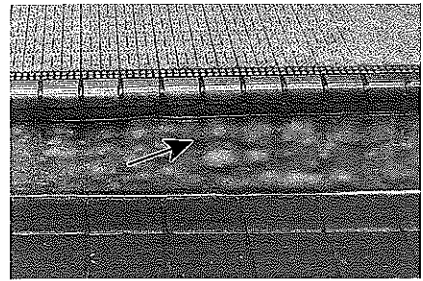


写真2 最下部土間直上の蹴込のふくれ

③シート端部のシールが甘

いか、図2蹴込入隅(円内)のR加工部の隙間から水分の供給があると段部などにふくれができやすい(図2のCルート)。この場合は端部のシーリングが命であり、蹴込入隅は、隙間をつくらないうようにピン摺り下地をつくてからシートを張る必要がある。

(有)鈴木哲夫設計事務所 代表取締役